

男女共同参画推進事業（平成28年度実施）

枕崎市では、

「一人ひとりの個性や能力を大切にしよう」

という男女共同参画の基本的な考え方を広めていくために、

次のような取組を行っています。

◇◆◇◆◇◆◇ 平成28年度実施事業 ◇◆◇◆◇◆◇

パープルリボンツリーの設置

男女共同参画フォーラム「まくらざきハーモニーフェスティバル」

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

パープルリボンツリーの設置

11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間中に、市役所玄関前及び福祉課窓口に「パープルリボンツリー」を設置しました。

パープルリボンは、女性に対する暴力根絶のシンボルであり、“あなたはひとりではないよ”というメッセージが込められています。

また、ツリーの横には、DVに関するパネルの展示のほか、パンフレットや相談機関が記載されたカードを一緒に設置しました。



↑女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

《 DVって、どういうもの？ 》

配偶者や恋人など、親密な関係にある人、または過去に関係があった人からの暴力による支配のこと。





↑市役所玄関前に設置した「パープルリボンツリー」



11月12日～25日
「女性に対する暴力をなくす運動」期間

←ツリー横に設置した「DVに関するパネル」



↑ツリー横に設置した「DVに関するパンフレット」や「相談機関カード」

男女共同参画フォーラム ～ まくらざきハーモニーフェスティバル ～



2月19日（日），南薩地域地場産業振興センターで「まくらざきハーモニーフェスティバル」を開催し、およそ120名の市民が参加しました。

NPO法人福祉相談センターにじ理事長 ^{うえむら} 上村 ^{おさむ} 修さんを講師に迎え、「地域で暮らし続けるために～私たちにできること～」と題した講演を行いました。地域で見守りが必要な方や仕事中心で働いてきた男性の地域での居場所づくり「男談事業」^{だんだん}について紹介し、「活動を通して男性の出番が多くなるとともに、女性

や子どもも交えた活動になってきている。男性に限らず、誰もが集える居場所にし、10年後も続けられる活動をしていきたい」と話しました。

講演終了後には、まくらざきハーモニーネットワーク委員会による恒例の抽選会と茶節の振舞いが行われました。抽選会では、市内企業・団体から特産品などの提供があり、多くの来場者に喜ばれました。



講師紹介



うえむら おさむ
上村 修さんは、南九州市顛娃町で介護サービスの提供やボランティアの人材養成等を行っているNPO法人福祉相談センターにじの理事長。平日は特別養護老人ホームで働き、週末はNPOの活動を行っている。仕事中心で働いてきた男性は、地域でネットワークを築けていない人が少なくない。そこで、県の事業を活用し、自治会と協働で、周囲の見守りが必要な男性も、定年退職後の元気な男性も、誰もが地域でつながりながら、生き生きと暮らし続けられるための緩やかで、穏やかな「男性の居場所づくり」を行う。

講演内容

NPOの
立ち上げ

- ・平成17年にNPO法人を立ち上げ。
- ・福祉の仕事を通して、これからは「地域の支え合い」がとても大事になってくるという思い。

気づき

- ・集落の方の暮らしぶりが見えてきた中で、男性は仕事中心で働いてきて、地域でネットワークを築けていない人が多い。
- ・「男性は地域の中で女性よりは居場所が少ないのではないか？」という気づき。

解決する
ために

- ・見守りが必要な男性も、現役を退いた元気な男性も、ともに地域でつながりながら、生き生きと暮らせる「男性の居場所」を作ってみたい。

地域の理解

- ・地域の課題なので、地域の方々の理解が必要。
- ・地域の自治会長や民生委員などのリーダー的な人に理解を求め、協力を得て、60代以上の男性限定で住民説明会を開催。



活動拠点づくり

- ・県の事業を使って、「だんだん小屋」という活動拠点を作った。
- ・「だんだん（男談）」は“男が談笑する場”という意味。
- ・活動拠点は作ったが、何をする？



活動内容①
刃物研ぎ

- ・刃物研ぎ支援事業：自分たちの特技を活かして、住民の方に喜んでもらえるので、生きがいややりがいを感じている。
- ・「刃物研ぎ」は無料 ⇒ お金を生む活動もやってみよう。



活動内容②
荒れ地活用

- ・集落内の荒れ地を整備して、そばやイモ植え。
⇒ 自治会の環境保全にも貢献。
- ・作ったものを地域の方にも提供する「だんだん収穫祭」の開催。
- ・グランドゴルフ大会の開催。



活動内容③
多世代交流

- ⇒ 普段の活動は男性だけだが、女性の参加もある。
- ・子どもたちと共同で炭窯と炭づくり。



新たな気づき

- ・実は居場所がないのは、男性だけじゃない。孤独を感じている女性もいる。

女子会の発足

- ・「男談事業」に触発された60代の女性が「女子会」の立ち上げ。
- ・男の居場所「だんだん馬渡」と「女子会馬渡」の交流。
 - ①「女子会馬渡」が、だんだん小屋に植えている桜を見に来て花見。
 - ②「女性会馬渡」の方が講師となり、「だんだん馬渡」自家栽培のイモを使ったイモあめ作り。



男談事業の課題

- ①居場所づくりのきっかけとなった，見守りが必要な男性を呼び込めていない。
- ②若い層の参加が少ない。 ③活動資金
- ④人間関係
(価値観を押し付けない。いろいろな考え方があるという“多様性”を認め合う。)

今後の方向性・目標

- ・男性に限らず，誰もが集える居場所「男談から^{だんだん}暖談へ」
- ・支援される側から支援する側へ（相互に支援しあう関係）
- ・皆が皆の事を気にかけてあいながら生活する場づくり ⇒ 自治会の自立

地域づくりの覚悟

- ・組織を動かせる人に相談し，自分の思いを伝える。
- ・やる人は調整役に徹し，継続するためにみんなの力を借りる。
- ・反対意見も貴重な意見として，謙虚な姿勢で受け止め，反論しない。
- ・自分を高め，信念をもって活動を続けると，協力者が必ず現れる。
- ・まずは実践！やっていると，活動の輪が広がる。

上村さんの経験に基づく講演、大変参考になりました。

「自分を高めることで、必ず協力してくれる人が出てくる」というフレーズが印象的であり、そうなるよう努めて行きたいと思いました。(30代・男性)

身近にある独居の問題がある中で、よき理解者や中心になる方がいて、とてもよい活動だと思いました。(50代・女性)

すばらしいの一言。まだ聞きたい、まだ聞きたい。

他人事ではなく、自分自身の問題であることを痛感。実行のきっかけにしたいと思った。

(70代・男性)

参加者の感想



私も地域活動を模索して勉強中であり、今回の話を参考として進展させたいと思う。(70代・男性)

“だんだん”という意味に「有難う」という意味もあるのを生まれ故郷の四国にあったことを思い出し、嬉しく懐かしく思いました。

(60代・女性)

「だんだん」の活動がとてもすばらしいと感じました。

手打ちそば、食べてみたいです。(40代・女性)

女性ですが、とっても楽しそうな活動でした。

地域で役割なく、家にばかり閉じこもる姿を見るのはさびしいです。

いろいろな方が地域にいらっしゃいますが、それぞれが輝ける活動ができていけばいいなと思いました。

(30代・女性)

当自治会と親睦団体との関係に似ており、共感しました。同じように女性陣も参加してきてくれており、だいたい一緒の方向へいくんだなと実感しました。

ただ、集落が小さいので、隣近所の集落との協調も必要になってくるなと思い、実行への道を歩きたい。

(60代・男性)

とても心あたたまる話で、自分の年をとってからのことも考えさせられ、良かった。

(50代・男性)